

地域と協同の 121号 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

見過ごせない

磁気浮上型「リニア新幹線」の見切り発車

柘植 新

名古屋大学名誉教授 日本科学者会議会員



東京(品川)ー名古屋間(286 km; 86% トンネル)を、超伝導磁気浮上方式により40分で走行するという「リニア新幹線」計画は、今秋にも国交省の最終認可を得て着工し、JR東海の単独事業として、2027年の開業を目指すと報道されている。

そこでは、在来鉄道では共通的に用いられてきた、高いエネルギー効率をもつ、密閉型の回転モーターではなく、その効率限界が50%とされる開放構造のリニアモーターを採用している。また、500 km/h超での高速走行のために、車両に積載した超伝導磁石の強力な磁力で、車両全体を約10 cm 浮上させて飛翔する方式を採っており、そのため100万kw クラスの原発、2~3基の増設を要すると試算されるエネルギー浪費型で、在来新幹線と較べて、3.5倍以上のエネルギーを浪費することが、JR東海の試算でも公表されている。

さらに、この高速飛翔の必要条件から、90%近くが直線に近い地下トンネル構造であり、断層が縦断している南アルプスを20 km余にわたって、無謀にも貫通することが、計画されている。この南アルプスは、「生態系の保全と人間社会との共生」を目的としている、ユネスコのエコパークに最近登録されたばかりであり、沿線からもトンネル工事による、生態環境の破壊、地下水脈の断絶・枯渇、放射性鉱物を含む膨大な残土処理などを危惧する意見書も上がっている。また、膨大な消費電力の発電・送電・変電などのシステムや超伝導磁石などから発生する電磁波や、高速車両の騒音障害なども深刻に憂慮されている。

また、日本と並んでリニア計画を推進してきた、唯一の競争国であったドイツが、2006年に実験線で23名もの犠牲者を出すという深刻な事故を契機にして、リニア計画からの撤退を決めている。さらに、3.11の原発大災害以降、いち早く原発を全廃する方向に舵を切り、再生可能なエネルギーの比率を着実に増加させているドイツには、いずれも学ぶべきところが多い。

CONTENTS

| | |
|--------------------------------|-----|
| 巻頭エッセイ | |
| 見過ごせない 磁気浮上型「リニア新幹線」の見切り発車 | 1 |
| 環境パネル「中部電力武豊火力発電所メガソーラーたけとよ」見学 | |
| 見て聞いてー再生可能エネルギーの今後について考えました！ | 2 |
| 三重のつどいー8月8日 第1回オープンカフェについて 報告 | |
| 今回の話題ー「TPPと食の安全」 | 3 |
| 取材記事ー | |
| 愛情たっぷり 地元の食材を使った市産市食の給食(新城市) | 4 |
| 情報クリップ | 5-7 |
| 企画案内・書籍案内 | 8 |

研究センター 9月の活動

| |
|-------------------------------|
| 2日(火) 事務局会議/食と農パネル世話人会 |
| 4日(木) 寄付講義準備会第3回 |
| 5日(金) 常任理事会 |
| 8日(月) マスターコース第3回/三河地域懇談会実行委員会 |
| 12日(金) 協同の未来塾 第6回 |
| 13日(土) 協同集会 in 東海 |
| 20日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/第3回理事会 |
| 22日(月) 研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会 |
| 25日(木) 岐阜地域懇談会「岐阜のつどい」ほのぼの朝日 |
| 26日(金) 理事ゼミナール第1回 |
| 30日(火) 地域福祉を支える市民協同パネル世話人会 |

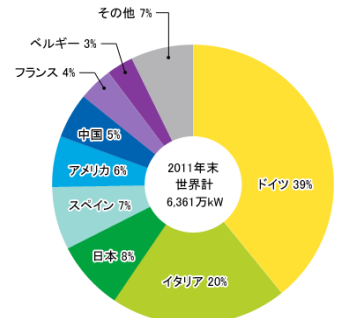
環境パネル 「中部電力武豊火力発電所・メガソーラーたけとよ」見学 （文責：事務局）
見て、お話を聞いてー再生可能エネルギーの今後について考えました！

7月16日(水)環境パネル世話人と企画応募者19名で中部電力の武豊火力発電所・メガソーラーたけとよの見学に行ってきました。第1回に見学させていただいた碧南火力発電所は、世界でも最大級の石炭火力発電所でしたが、武豊には再生可能エネルギーの発電施設・メガソーラーもあります。私たちのエネルギーについて、実態を見て考えるための発電所見学第2弾です。

《武豊火力発電所所長さんのお話》

1. 中電電力として再生可能エネルギーの取り組み

再生可能エネルギーの開発推進は、一つは、地球温暖化の対策、もう一つは資源の枯渇への対策です。日本では、一人当たり石油換算で3.9tのエネルギーを使っています。エネルギーの自給率は5%なのに、世界の2倍の電力を使っています。枯渇の心配がないエネルギーは太陽光、風力、地熱がありますが、世界の太陽光設備は6,361万kWの容量ですが、その39%は、脱原発に取り組むドイツです。しかし国



▲2011年末世界の太陽光の設備容量



▲ 敷地14万㎡のメガソーラー

内需要の3%ということです。また、メガソーラーの発電は雲の影で瞬間的に発電が変化します。また電気使用量が増えると周波数が下がり、つくりすぎると周波数が上がる傾向もあります。調整しながら60Hzにしています。これも発電の全体に占める割合が多くなれば、電圧と周波数がコントロールできなくなる懸念もあります。発電所は最高出力だと黒字になり、最低だと赤字になります。再生可能エネルギーは必要ですが、増やしすぎにはいけないというのが現状です。

メガソーラーたけとよは、最大出力7500kWですが、時間で変化し、影が出来るると一気に電力が落ちます。2000世帯分の電力になりますが、碧南火力では約2

時間で発電します。メガソーラーの変換効率率は現在15.4%です。世界最高は44.4%で宇宙開発用ということです。現在のところ、中部電力ではこれ以上上げるつもりはありません。

2. 武豊火力発電所はピーク火力

1号機は老朽化し廃止、現在2、3、4号機が停止状態ですが建設から42年が経ちます。電力不足が予想される場合に稼働させ、今年度の運転は8日間だけです。明日は1台運転の打診はありました。武豊火力は「空振り」があり、発電する直前に運転を取りやめることが今年度は1回あり、昨年は33回ありました。一回空振りすると200万円の経費がかかります。太陽が陰ったからといって、すぐ火力発電所は動かさせません。中部電力には71台の発電設備がありますが、そのうちで一番最後に稼働する発電所です。2号機は、H21年7月に止まっていたものを、菅首相の要請で浜岡原子力発電所を止めた時に、急遽動かした設備です。エネルギーや電気の政策は、簡単に決めてはいけません。

《参加者の感想、出された課題や問題点など》

「所長さんのお話は上手だった。蓄電や、電気の地産地消という部分にはあまりふれない、くらしの見直しを含めて考える場があるといい。」「電力に頼り切った生活を今一度見直し、企業の言いなりにならない様、消費者自身も学習していかないといけない。」「電気は公共性があると言っていたが、営利ではないのか。」「錆だらけでビックリ。発電所は維持費をきちんと使ってほしい。」「再生可能エネルギーで電力をまかなうのは容易なことではないが、技術が進めば実現するのでは。」「何年前かと説明の内容は一緒。技術的改良が止まっているのではないかと思った。」「中部電力は企業と向き合って仕事をすすめていると感じた。」「再生エネルギーはあてにならないと言っている。原発の維持費などのコストを自然エネルギーにむけるように、国にも企業にも言っていないといけないと思う。」「再生エネルギー開発推進は必要と言いつつ増やさないと言われた。再生エネルギーは中電まかせでは増えない。」「原発事故は取り返しがつかないことが起きた。」「エネルギーの地産地消に本気で向かっていかないといけない。」「メガソーラーもアリバイづくりでは。市民に何が出来るか、発信しないといけない。日本はまだ成長戦略で、リニアも電気をたくさん使う。これでいいのか。」などの意見が出されました。



▲ 老朽化した 武豊火力発電所

三重のつどい—8月8日 第1回 オープンカフェについて 報告

今回の話題—「TPPと食の安全」

《 寄稿 : 三重のつどい世話人 三重大学人文学部准教授 前田定孝さん より 》

去る8月8日金曜日、日本科学者会議三重支部・地域と協同の研究センター三重のつどい・三重大学生協同組合の3者の共催で、三重大学生協のカフェテリア「ぱせお」で、「第1回オープンカフェ」を開催した。

参加は、三重大学および三重短期大学の教員、三重大生協職員に加えて、農業新聞の記者と地域の人が参加した。さらには、参加者が教員ばかりだったことから圧倒されて、「ぱせお」の入り口で入場をためらっていた学生も参加した。

「オープンカフェ」とは

一般に聞き慣れない言葉であるが、この企画を発想した三重県生協連の岡本一朗氏が発明した言葉である。いわゆる「サイエンスカフェ」に加えて、ある程度本格的な食事やアルコールが出されるものを想像していただくとわかりやすい。参加しやすいように、参加費の設定も、「お話のみ：無料」「懇談会に参加される方：3500円（お酒を飲まれる方）」および「2000円（お酒を飲まれない方）」とした。



《今回の内容》

この企画の第1回目となる今回の話題は、**三重短期大学の石原洋介氏による「TPPと食品の安全」**である。

石原氏は、TPPを推進する米国企業連合が、WTO協定の中のGATTおよびGATSを法的根拠として進めているものであること、そのなかでもSPS協定というGATTの補助協定が問題の中心であり、それは、食の安全に関連して、安全基準をめぐる、EUの予防原則に対して、いわゆる「科学主義」といわれる、それは、EUでいう「安全であることの証明」を求めるのに対して「危険でないことの証明」を求める点で異なっており、そこで、規制の基準を設定するのに際して、厳格な自然科学的根拠を要請するものであること、したがって結果的に企業寄りの姿勢となること、などが紹介された。

さらに、かかるSPS協定をめぐる議論はTPP交渉においても影響を与えており、そこでは食の安全が危惧されること、そこでは遺伝子組み換え作物の栽培面積の拡大にもみられるように、穀物メジャーの影響が拡大していること、とりわけ日本経団連の会長企業である住友化学とモンサント社とは特別な関係にあること、遺伝子組み換え作物であることの表示は非常にわかりにくくされていることなどが紹介された。最後に石原氏は今後の展望として、「TPP以前にWTO・SPS協定は食の安全を守るのに不十分」であり、ここでは、誤った科学主義の是正が求められるのであり、危険性が立証されるまでは流通を認めるのではなく、安全性が確認されたものを流通させること、危険性が疑われるものは予防原則の適用を認めること、などの改善は不可欠であること、貿易の自由よりも、人命・健康を第一に追求すべきこと、国際基準をつくる団体の民主化が要請され、利害関係のある大企業を排除し、企業に食品の安全に関わるデータを隠さず提供させる強制力を付与させる必要があること、などを強調した。さらに、「TPP参加は、日本が実施している食の安全審査を骨抜きにする機会を米国に与える可能性がある」（日本の安全審査自体、十分とはいえないが、より低い水準の米国と「措置の同等性」を認めることは大変危険である）こと、「食の安全を守るためには、広範な国民の支持と覚悟が必要」である（EUが合成ホルモン牛肉を断固拒否した例のように、経済的損失を甘受しても食の安全を守る覚悟が必要）こと、まとめると、SPS協定の「科学主義」とEUの予防原則との矛盾のなかで、「措置の同等性」を突破口としたアメリカの新自由主義的介入に対する「覚悟」も求められる、とした。



愛情たっぷり 地元の食材を使った市産市食の給食(新城市)

地域と協同の研究センターでは、「食と農のパネル」での活動等、「食」についてさまざまな調査活動に取り組んでいます。今回、会員で新城市食育推進協議会会長の前澤このみさんから、新城のこども園での取り組みを紹介いただきましたので、取材させていただきました。（取材・文責：伊藤小友美）

新城市のこども園では、年に4回、「市産市食の給食の日」があります。新城産の食材を90%使用した献立は、食材の生産者の方の紹介(〇〇地区の△△さん)もあり、当日は市長さんはじめ生産者のみなさんや、市議会議長さんなどたくさんの大人が、市内のこども園を訪れ、子ども達と一緒においしい給食をいただきます。

7月15日、前澤さんと一緒に鳳来こども園におじゃましました。

職員室でまず、園長先生にお話をうかがい

ました。鳳来こども園の子ども達は31名、先生は6名、給食員さんは1名です。ピーマン、なす、きゅうり、オクラなどを年長さんが自分で苗を選んで植えるそうです。畑には元気な野菜たちが並んでいました。そんなことをお聞きしていたら、かわいいお当番さんが呼びにきてくれました。大きい組のみんなと一緒に、私達も給食をいただきます。

本日の献立は

○トマトのキーマカレー（新城産のトマト・人参・たまねぎ・オクラ・お米使用）

○かぼちゃサラダ（新城産のかぼちゃ・きゅうり使用）

○ブルーベリーゼリー（新城産のブルーベリー使用）です。

「手を合わせてください。いただきます。」というお当番さんの声に合わせて、みんなで「いただきます。」をします。なんだかとても懐かしいうれしい気分です。トマトのキーマカレーは、とてもやさしくて少し甘いお味でした。トマトはすっかりカレーに溶け込んで形はありませんが、ほのかに甘くしているのはトマトの力かと思いました。トマト嫌いの子もペロリです。かぼちゃサラダは彩も美しく、ほくほくのかぼちゃが美味しさを主張しています。「シャキシャキだね、きゅうり。」「うん、シャキシャキ！」と子ども達がいきました。ブルーベリーゼリーは夏の暑さにうれしいデザート。つぶつぶが苦手な子もいましたが、みんな完食。「全部食べたらお代わりしていいんだよ。」とやさしく教えてくれる子もいました。みんなで「ごちそ



うさま。」をした後、子ども達は歯磨きタイムです。

保育室には壁いっぱい子ども達が描いた絵が張られています。おひさまと緑の葉っぱ、「きゅうりをうえたよ」と書かれた画用紙からは子ども達が楽しそうに植えたことがわかります。きゅうり、なす、トマト、自分で植えた野菜のことは、いつも気にして水をやっているそうです。豊かな自然と、元気な野菜に囲まれて、鳳来の子も子ども達は実にのびのびと育っています。

お礼を申し上げてこども園を後にし、市役所のこども未来課に栄養士の田嶋智美さんを訪ねました。以下は田嶋さんのお話です。

本格的に市産市食の給食が始まったのは平成24年の12月です。春夏秋冬、旬の産物を使った給食です。夏野菜のかぼちゃやなすは苦手な子どもも多いのですが、カレーやハンバーグ等子ども達が好きなもの、食べやすいものに入れるように工夫しています。自宅だと食べられない子どもも、園では食べるそうです。生産者の方に話を聞くと、食べる意欲につながりますし、新城でつくっている野菜に興味を持てます。給食に関わる人達に感謝の気持を持つようにもなります。ハンバーグやコロケもひとつひとつそれぞれの園で給食員さんが握ります。

いつもメニューは、「食育だより」で紹介します。今日の給食のキーマカレーにはトマトが入っていますが、トマトは湯むきして刻みます。半分は先に入れて、残りの半分は酸味が残るように後で入れるという工夫もしています。

食材選び、メニューの作成などにも苦労を重ねましたが、地元JAにもご協力いただいて、市産市食の給食の日は、やっと定着してきました。普段の給食は、週5日のうちご飯が3日、パンが1日、麺が1日です。各園で食材は発注しており、なるべく地元のものを使うようにしています。

新城市の「市産市食」の給食の取材をさせていただきました。新城市の食育への熱い姿勢を感じました。9月、このニュースが発行されるころには、秋の献立の日が終わっているのでしょうか。八名丸里芋のコロケと米粉のパン、おなかも心もいっぱいになることでしょう。この給食を食べて育つ子ども達の成長が楽しみです。

情報クリップ



| メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所 | 目次・主な内容 | 発行年月 判型 定価(税別) |
|--|---|--|
| <p>▶生き生き働ける 宅配現場のために</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 NAVI 2014.9 750 日本生活協同組合連合会</p> | <p>▶特集生き生き働ける宅配現場のために 地域を知り、商品を選び、仲間と共に成長する</p> <p><僕らは商品探偵団> 野菜嫌いでも飲みやすい野菜と果実の彩果菜園プラス食物繊維</p> <p><全国のラブ・コープ・キャンペーンを♪ラブコが行く> 大阪いずみ市民生協 「ラブコープ・キャンペーン キックオフ集会」開催！</p> <p><突撃☆あなたの街の組合員活動> コープあおもり「生協ねぶた」</p> <p><進化する生協の店づくり> 京都生協 コープ二条駅</p> <p><こんにちは！生協女子ですっ！> (株)シーエックスカーゴ 桶川流通センター 小島愛理さん</p> <p><CO・OPニュースフラッシュ> コープぎふ 富山県生協連</p> <p><つながろうCO・OPアクション情報> 食のみやぎ復興ネットワーク「応援のしっぽ」</p> <p><生協人の基礎知識> 第6回 店舗事業 その2</p> <p><この人に聴きたい> 俳優 金子貴俊さん</p> | <p>2014年 9月 A4版 35頁 定価 350～円</p> |
| <p>▶被災地で健康と つながりをつくる</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM 2014.9 565 日本医療福祉生活協同組合 連合会</p> | <p>▶特集 被災地で健康とひろがりをつくる みんなで支え合うまちづくりをめざす 地域に合った支援を提供</p> <p>[バンビのつぶやき 21] 憲法9条に守ってもらっていたのは私たち 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子</p> <p>[住まう 21] 住まいと生活支援で地域居住を支える(中編) 空き家を活用した低所得高齢者住宅 NPO法人自立支援センターふるさとの会</p> <p>[TOMOそだち 21] 同じ悩みを抱える仲間と「生存戦略」を考えたい NPO法人全国不登校新聞社 不登校新聞「FONTE」編集長 石井志昂</p> <p>[協同のある風景] 220 地域購買生協との協同ですすめる給食・配食事業 ー医・福・食・住の充実をめざして 株式会社あおもりコープフーズ</p> | <p>2014年 9月 A4版 39頁 定価 400円</p> |
| <p>▶脱原発 その日に向けた一歩に</p> <hr/> <p>社会運動</p> <p>2014.8 413 市民セクター政策機構</p> | <p>特集 脱原発ーその日に向けた一歩に</p> <p>「一つの志」を基盤に、多様な立場の大連合を 船橋晴俊(法政大学)</p> <p>なぜ、私は脱原発なのか 村上光雄(全国農業協同組合連合会)</p> <p>発展よりも「人・環境」の視点で 村上達也(前東海村長)</p> <p>脱原発に向けた今後の市民の取り組み 吉田明子(国際環境NGO)</p> <p>原発事故被害者を棄民化させてはならない 瀬戸大作(パルスシステム生協)</p> <p>地域政治、エネルギー事業に市民参画をすすめる 木村庸子 渡辺繁美(生活クラブ生協)</p> <p>脱原発と市民政治運動 大西由紀子(東京・生活者ネットワーク)</p> <p>脱原発社会に向けたクリーンコープの取り組み 飯野千恵美、高濱千夏、久保かおり、長野清美(グリーンコープ)</p> <p>巨大リスク<原子力>世界をどう生きるか? 古沢広佑(國學院大学)</p> <p>生産者と消費者を結ぶ 小山良太(福島大学)</p> <p>脱原発のロードマップと自治体が講ずるべき対策 倉坂秀史(千葉大学大学院)</p> <p>原発ゼロと気候変動対策の両立に向けて 桃井貴子(気候ネットワーク)</p> <p>原発避難計画は機能するのか 上岡直見(環境経済研究所)</p> <p>黒部川電力と地域分散型エネルギー事業の過去未来 三浦一浩(地域生活研究所)</p> <p>「大飯原発判決」が問いかけるもの 小林幸治(市民がつくる生活調査会)</p> | <p>2014年 8月 B5版 80頁 頒価500円</p> |

▶ 社会保障の変遷と課題、そして展望

生活協同組合研究

2014. 9
464

(財) 生協総合研究所

■ 巻頭言 福祉国家イギリスの変遷
▶特集 社会保障の変遷と課題、そして展望
—国内外の福祉事情を踏まえつつ—

社会保障の変化・役割・課題
社会保障制度と実態経済の変遷から見た課題
マルチステイクスホルダー・アプローチによる政策実現
次代コープこうべ新規事業 学童保「Terakoya(てらこや)訪問記」
スウェーデンの子育て支援について
カナダの高齢者介護サービス制度の現状 —オンタリオ州の場合—
コラム フィンランドの税・社会保障負担

都築忠七
西村淳
大林守
近本聡子
上田尚美
秋朝礼恵
山崎由希子
鈴木岳

2014年
9月
88頁
B5版

■ 海外情報

ICA調査委員会主催国際協同組合研究会議に参加して

イギリス・コーペラティブ・グループの経営危機とそれを招いたもの

栗本昭
佐藤孝一

■ 時々再録

読売テクノフォーラム

「がん患者の希望と絶望—がん医療の日米格差はどこからうまれるのか」

白水忠隆

■ 研究と調査 大学生協同組合の課題と潜在可能性

滝川好夫

■ 新刊紹介

藻谷浩介対話集 『しなやかな日本列島のつくりかた』
新雅史 『商店街はなぜ滅びるのか』
大沢真理 『生活保障のガバナンス』

伊藤治郎
山下順子

▶ 「農協改革」に関するJAグループの取り組み

月刊 J A

2014. 9
715

全国農業協同組合中央会

特集 「農協改革」に関するJAグループの取り組み

【報告1】

「農協改革」に関する政府・与党の検討経過とJAグループの取り組み

JA全中広報部

【報告2】

「農協改革」に関する世界・国内の協同組合組織の取り組み

JA全中総務企画部

・きずな春秋 —協同のこころ—

童門冬二

・地方紙ニュース 第42回

多様な産品生む産地県・徳島

山川 幸 (徳島新聞社)

・直言！JAへのメッセージ 「いつか来た道」を許していいのか

柳沢敏勝 (日本協同組合学会会長 明治大学商学部教授)

・JAトップインタビュー 「おもてなし」の心を大切に

長崎県JAながさき県央 代表理事組合長 西山洋一郎

・地域・支店から『戦略』を考える 地域ぐるみで展開する食農教育活動

西井賢悟

・展望 JAの進むべき道 JA全中会長再任に当たって

萬歳章

・海外だより [DC通信] 40 アメリカ内で高まる圧力

古林秀峰

・見せましょう、協働の底力！

加工事業で生産者と消費者をつなぐ

小池手造り農産加工所有限会社 (長野県)

青山浩子

・次代へつなぐ協同実践塾

・持続可能な農業の実現

家族経営を支える農業経営管理支援の展開について

JA全中営農・経済改革推進部

・豊かで暮らしやすい地域社会の実現

子育て世代の仲間づくりから食農教育へ

JA全中くらしの活動推進部

・10年後JAが存続するために

「人が育つ経営」の実現マネジメント研修を

JA全中教育部

2014年
9月
A4版
64頁
年間購読
料
4,800
円(送料込)

▶CO・OP共済の成長と
これから

●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！
危機を乗り越えてきた歴史を胸に段階を踏んで合併を実現
生協くまもと ●理事長 吉永章氏

特集 CO・OP共済の成長 これまでとこれから

- 1 コープこうべのCOOP共済事業その歴史を振り返り、現在の課題を知る
 コープこうべ ● 共済・サービス事業部 事業部長 多村孝子氏
 共済支援 統括 小林直樹氏
 共済支援カウンターチーフ 吉本暁弘氏
 - 2 全ての組合員をつなぐための共済事業を通じた人材育成
 コープさっぽろ ● 共済推進室 室長 池川雅子氏
 - 3 コープあきたのCOOP共済の歴史と「やり切るマネジメント」の取り組み
 コープあきた ● 共済部 部長 伊藤良好氏
 - 4 共済の強みを生かしつつ、環境変化に対応した共済推進で
 組合員にお役立ちする
 コープ共済連 ● 理事長 矢野朝水氏
- 全米勝ち組小売業から学ぶ ～現地レポート
 第3回 優良小売業が力を入れる「近隣巻き込み」戦略
 JAC_USA ENTERPRISES INC ● 五十嵐ゆう子氏
 宅配事業・宅配センター運営を学ぶ
 第3回 安全運転はすべてに優先する 佐川急便株式会社の安全推進運動
 佐川急便株式会社 ● 安全推進部 安全教育推進課 係長 村上進氏
 改正フロン法の前面施行に向けた対応基準の詳細
 日本生協連 ● 事業支援本部 事業効率化推進グループ 山下直

2014年
9月
B5版
95頁
定価850円

生協運営資料

2014. 9
279

日本生活協同組合連合

▶地域医療を守る
「協同組合医療」

農協組合長インタビュー (9) 大きい農協も小さい農協もあっていい
厚生連事業は地域医療を守る「協同組合医療」

連携・協同を広く深く進めよう
安心して住み続けられる社会を
「参加」と「協同」を不断に追及する
院長リレーインタビュー(279) 相手の心を打つ医療を
ポストTPP農政の展開 (6)

佐野治
神尾透
山田尚之
木内健行
東公俊
谷木利勝

2014年
8月
B5版
80頁
文化連情報
編集部
03-3370-
2529
*注

文化連情報

2014. 9
438

日本文化厚生農業協同組合
連合会

農業攻撃をどう跳ね返すか - まとめと課題
 高齢者住まい法改正とサービス付き高齢者向け住宅 (上)
 第41回関東農村医学会学術総会を開催して
 石巻だから作れる新しい医療の在り方
 JPEPAの神話を超えて (2)
 外国人看護師は日本で「看護技術」を十分に活かすことが出来ているだろうか
 消費税増税を伴う平成26年度の診療報酬改定と
 医療材料における価格交渉の展望
 森の中の病院-佐久医療センター
 デンマーク&世界の地域居住 (64)
 イギリスの高齢者施設:ケアホーム
 岐路に立つ日本のエネルギー政策 (1)
 「エネルギー基本計画」批判
 ボローニャ キリスト教系社会的協同組合が運営する高齢者介護施設
 野の風●自分の好みに合ったワインを探してみる
 旅する私との素敵な出会い (最終回)●マチュピチュを独り占め
 なぜホロコーストは起きてしまったのか

田代洋一
小磯明
十川康弘
長純一
平野裕子
伊藤幸夫
松岡洋子
大島堅一
小磯明
佐藤暁子
山本京子
高橋章子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。 詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

日本協同組合学会秋季大会●2014年10月24日(金)～26日(日)●愛媛大学農学部
●25日(土)大会講演・シンポジウム 13:00～17:45
テーマ「協同組合は労働の有り様をどのように考えてきたか」

「日本の男性稼ぎ手モデルの現実と近未来の生活保障に向けた政策課題～非営利・協同セクターに何ができるか～」

(仮題)・・・基調講演：大沢真理(東京大学)・・・13:10～14:30

シンポジウム 14:45～17:45

「協同組合は労働の有り様をどのように考えてきたか」～非営利・協同セクターの仕事と働き方～

報告 ①日本型労働の何が問題か、協同組合における労働のあり方を問う ②生協職員の意識調査からの実態報告 ③ワーカーズ・コレクティブによるコミュニティワークの実践

パネルディスカッション

参加申込：10月10日(金) 必着 基本参加費：学会会員1,500円 非会員2,000円
※交流会参加費：4,000円 学生3,000円

●24日(金)地域シンポジウム 25日午前中：個別論第報告 18:00～20:00交流会 26日：エクスカージョン
詳しくは→<http://www.coopstudies.com/大会-秋/>

書籍案内

農協の大義 (農文協ブックレット10)

著者太田原高昭 定価864円(税込) 判型/頁数A5 100ページ

発行日2014/08 出版農山漁村文化協会(農文協)



<解説>なぜ日本の農業協同組合は総合かつ系統農協でなければならないのか、なぜ農業委員会は農家による選挙を経た委員会でなければならないのか、などの視点から、規制改革会議の「意見」を地方・地域社会を破壊するものとしてその無知・暴論を逐条的に徹底批判。併せてわが国社会インフラの一環としての農業、農協諸制度の因って来る歴史的形成過程とその必然性、および今後の自主改革への道を提言。

<目次>

- 1 戦後レジームからの脱却と"非連続な"農業・農協改革
- 2 中央会制度の「廃止」と農協農政活動
- 3 全国連合会なくして協同組合の発展はない
- 4 単協から切り離せない信用事業と共済事業
- 5 総合農協と専門農協の歴史的展開
- 6 総合農協を解体させてはならない
- 7 理事会のあり方への異常な介入
- 8 農協の准組合員をどう見るか
- 9 行政と農協の関係はどうあるべきか
- 10 農地を守る農業委員会への攻撃
- 11 農地を所有できる法人の拡大
- 12 国際的批判を浴びる安倍農政
- 13 消費者、国民と共に歩む農協へ

農山漁村文化協会ホームページより

2014年9月25日発行(毎月25日発行)
定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事 西川 幸城
〒464-0824 名古屋市中千種区稲舟通1-39
TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
E-mail AEL03416@nifty.com
HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 10月の活動予定

- 1日(水) 食と農パネル 農業生産法人「中甲」見学
- 2日(木) とうかい食農健SC大人の社会見学
「とうふ工房いしかわ・麩屋銀」
- 6日(月) 共同購入事業マイスターコース第4回
- 7日(火) 事務局会議
- 10日(金) 常任理事会
- 20日(月) 三河地域懇談会 実行委員会
- 21日(火) フォーラム職員の仕事を考える世話人会
- 23日(木) 岐阜地域懇談会 世話人会
- 24日(金) 協同の未来塾 第7回
- 30日(木) 理事ゼミナール第2回